



リニューアルオープンする「ド・アン」(名古屋市中区)

「ド・アン」(名古屋市中区)は3階建てで、1階はラ・メゾン ド・アンをシャッフルして活用したり、美顔や痩身(そうしん)などエステメニューも設けており、女性層から支持を得ている。

良いをあわせた回答が全体の88%を占め、前回(13年12月)の調査に比べて9.5%上昇した。市場の今後の見通しについても、前向きな意見が目立った。名古屋都市再開発促進協議会と名古屋都市再開発研究市場に関する調査」でわ

また、名駅地区と栄地区の魅力度についても調査した。栄地区は名駅地区と比べ、「インフラ(文化・学術・研究拠点)」「商業性(商業

名商が経営作成支援 名古屋商工 16、23の3日 中区栄の同会 計画作成支援 開催する。企業 や、小規模事業 助金申請、創業 要な経営計画の

別注印刷紙器 既製品パッケージ、ラベル、シールなどの製造卸、ノベルティ商品などの企画・販売といった事業を展開している一栄(名古屋市中区、http://www.wappon.co.jp/)。「選挙ポスターの強い味方」として長年愛用されているワッポンは、先行商品の失敗を経てロングセラーへと成長した商品だ。



ワッポンは、同社の親会社である、岐阜のヤマニパッケージが開発した商品で、同社が発売元。ウレタン製で弾力があり、多少でこぼれがある面にもしっかりと貼ることができる粘着シール。ガラスやコンクリート、タイルなど、屋外でも場所を選ばずに貼ったり、はがしたりでき、小さいのではがしやす。別名「貼る画びょう」だが、針がないので安全だ。

場所を選ばず貼れる

もともと1970年代後半、ブラウスなど繊維製品の入った袋を留めるものとして開発。当時、岐阜は繊維業が盛んで、繊維製袋を袋詰めにして輸送していたので、何度もつけはがしができる粘着シールがあれ

機能が弱く使い勝手が悪い

ば、重宝されると考えた。こうして誕生したのが、「アドホック」という、円形で弾力のある粘着シールだった。ただ、問題のある商品だったという。アドホックは、ドーナツ状のウレタン素材の穴の部分が粘着シールになっていた。粘着部分が露出しているため、ホコリなどが付いてしまいい、粘着力が持続しなかった。それで粘着部分にフィルムを貼り、使用時にはがして貼るように改良。ところが、このフィルムが静電気を帯びてしまうため、はがした後で洋服などにくっつき、使い勝手が悪かった。しかも、ほとんどくっついた袋自体にテープがついたものが出るようになり、

用途を変え使いやすさ向上

アドホックは売れなくなっ てる。粘着力には特にこだわったという。

選挙ポスター用に

1980年ごろ、「壁に貼ること」を用途にしてアドホックを改良して発売した。それがワッポんだ。ドーナツ状ではなく、円そのものを粘着面とし、またフィルムではなく紙を剥がして使うというタイプにした。アドホックから発想を変えたことがヒットにつながった。



近年は名前入り、ロゴ入りワッポンの注文も受け付けている。社名を入れてノベルティに、ロゴを入れて販促品にも使える。業務用は同社のホームページで、市販用は文具店や100円ショップで販売している。

「一栄粘着シール」ワッポ

名古屋商工 16、23の3日 中区栄の同会 計画作成支援 開催する。企業 や、小規模事業 助金申請、創業 要な経営計画の

ホテル再建の柴田氏講演

6月に労働セミナ 6月 6日 6月 6日